

ひらおか

平岡地区町内会連合会

清田区平岡7条3丁目9-25 平岡まちづくりセンター内 TEL 883-7100 発行責任者：鎌倉 功 編集責任者：竹下 敏雄



町連会長のひとり言 (畑友達、また楽し)

平岡地区町内会連合会
会長 鎌倉 功

町連会長として2期目の大事な時期に入り、連日の暑さに水で頭を冷やしながら今年の課題に取り組んでいます。

一番目は、「会則の部分改正」です。3年前に改正しましたが、運用上いろいろ問題があり、5月、特別委員会の6人の委員に検討をお願いしました。7月の理事会で、理事各位の意見をいただき現在更につめており、12月理事会で総会提出の成案作成の予定です。

二番目は、今年見送った「ふれあい祭り」の再開をめざす取り組みを専門部会で検討中です。子供から高齢者まで楽しめ、お子さんの「仮装大会」や心が若い婦人の「踊り」をはじめ、歌謡大会、大抽選会、屋外のマルシェ、そして広い場所での開催等、夢はどんどん膨らんでおります。(予算はどうする?～会長がなんとかするべー) 乞う、ご期待。

三番目は「私の趣味」の話でひとり言。近所に10坪ほどの畑を借りて5年目になる。

1年目は、キタアカリ、インカのめざめ等大豊作。ササギ豆、キュウリもご近所にお裾分け、俺は農家が向いていたか、と遊びに来ていた孫に「新鮮だぞ、うまいべ」と小遣い渡し農業経営の自慢話。

2年目も過ぎ3年目～会長就任～例年どおり種もまき、苗も植えた。7月、周りの人の畑は収穫時、我が畑は草ぼうぼう。周りの「畑友」が、たまに顔を出す「おいら」に「会長、豆持ってけー、トマトも持ってけ」と思いやりの言葉。隣の畑の奥さんが「草取りして、豆に竹を立ててやったけどツルが絡んで駄目だね」に「月イチの農作業じゃ無理だよ」そうそう、背広に革靴じゃねえ」町連会長には農業経営は無理なのか。ご近所には冷害と言っておこう。

5年目の今年は、朝5時起きで健闘中。しかしこの連日の猛暑、キュウリも水不足で枯れ果てた。ご近所にはササギ豆以外は、畑は砂漠みたいで大不作と言っておこう。そうだ、理事会でも難問には「頭も水不足で枯れ果てた、解決は来年の天候待ち」で乗り切るか。

ご存知ですか
平岡町連ホームページを開設!

パソコンとスマホでご覧になれます。
アドレスは次の通り。
http://hiraoka.kiyotamin.net/wp/
スマホはQRコードから手軽にご覧できます。



清田区に地下鉄を!警察を!郵便局を!
清田区民一人一人の熱意と声が
みんなの行動力が市政を動かします!

地下鉄の「清田区延伸」は、 どうなっているの?



= 現状と今後の見通し =

◎現状：地下鉄東豊線建設促進期成会連合会は、今年7月11日、札幌市役所に於いて、秋元市長に「地下鉄東豊線の清田区方面への延伸について」要望をしました。

【要望要点】

1. 清田区のまちづくりには地下鉄が必要不可欠
2. 地域交流拠点の早急な形成
3. 札幌ドーム周辺地域の活性化
4. 新千歳空港、北広島を視野に入れた地下鉄延伸
5. 地下鉄の一刻も早い決定と着工

●平岡町連鎌倉会長の市長への要望 (他の町連会長も要点等について質問)

「財政の問題、中期計画の問題と色々質問をしようと思ったのですが、質問の趣旨を変えまして、清田区民の想いを訴えさせていただければと思います。20数年前にバブルがはじける前は、明日にも地下鉄が来るという区民の想いでしたが、幻のごとく消えてしまった。今回のオリンピックの絡みで大きなチャンスになるのではないかと、ひょっとすると最後の大きなチャンスかもしれないと思っており、是非、区民の想いというものを市長さんの胸に治めて頂ければと思っています。地下鉄建設が多額の財源がいると言うことは当然承知しておりますけれども、少しでも予算を下げるために、平岸から真駒内方式を導入されるということも一つの削減する方法になるのではないかと思います。清田区だけを都心から遠い区にしていただきたくないとおもいます。ぜひ、地下鉄を清田にと、ご決断をしていただくようお願いします。

●秋元市長の鎌倉会長への回答

私も皆さん方の想いは重く受け止めております。何とかこれをクリアするためにどうやって人が増えるのか、あるいは構造的なものも含めて費用をできるだけ落とす手法がないのか、引き続き内部検討をさせていただきます。収入を増やして費用を落とすということしかありませんので、これに向けてさらに検討を進めていきたいと考えております。

◎今後の見通し

札幌市は地域交流拠点(地下鉄駅やバスターミナル等の、町作りの核となる拠点)17カ所を整備する計画であるが、このうちの4拠点(新札幌・篠路・清田・真駒内)は、先行的に取り組む拠点と位置づけたが、地下鉄もJRもないのは清田だけであり、さらに新札幌・真駒内は大規模まち作り計画が推進されています。

市長は、今年6月新聞インタビューで「今後10年程度を見据えて、事業、必要経費、財源等を考えており、今年は選挙の年で骨格予算としたが向こう5年間の主要施策を盛り込むアクションプラン2019を年末頃までに策定予定」と述べたそうです。清田区の地下鉄延伸は、このアクションプラン2019に入るのか否かが今後を見つめる大きな分かれ道になると思われまます。



地下鉄南北線
1971.12.06開業



地下鉄東西線
1982.03.21延伸開通



地下鉄東豊線
1994.10.14延伸開通

平岡を流れていた 幻の川「二里川」

にりかわ

平岡には、かつて二里川という川が南から北へ地域の真ん中を縦断するように流れていました。今は埋め立てられ、地図からも消えてしまっています。2018年9月の北海道胆振東部地震では、平岡地区でもかつての二里川沿いで液状化が発生しました。

清田区の歴史に詳しい寛紀明さん(里塚在住、元清田小学校長)によると、二里川は図①に示した青線の部分を下(南)から上(北)に流れていました。源流は今の平岡南公園付近と、もう少し上流の国道36号線を越えた美しが丘の2カ所で、いずれも湧水から流れ出していたそうです。

今の平岡イオンの森にある池は、かつての二里川の名残と思われます。川はさらに今の平岡中央中学校、平岡中央小学校、平岡地区会館付近を流れて平岡北公園、平岡三角公園と下っていました。平岡北公園のくぼ地は、かつての二里川の谷を彷彿とさせます。ここにはその名残と思われる湿地帯があります。

平岡北公園から下流は現在、遊歩道のようになっています。谷底のようになっていて、いかにもかつて河川だったような佇まいです。

平岡三角公園から先は、御料線を横切り、大谷地西4丁目16付近に流れ、ここから川は表に出ます。現在、二里川はここから始まり、南郷通と国道12号線の下をくぐり、国道12号線から約400m先で厚別川に合流します。

平岡地区を流れていた二里川は、平岡の宅地造成とともに埋め立てられてしまい、川は今ありません。札幌市によると、雨水などは下水道管で処理しているといいます。

平岡農事実行組合創立60周年記念誌「ひらおか」(平成11年発行)には、「まぼろしの川、二里川」という記事があり、二里川は「昭和50年代中頃から昭和62年までの宅地造成で姿を消した」とあります。



図① かつて平岡の真ん中を南(下)から北(上)に流れていた二里川。青線で示している



今は大谷地西4丁目から始まる二里川



ラグビーで輝く! 生涯、青春の人生!

平岡北町内会
副会長 木全 吉夫

記者：日本中がラグビーワールドカップで盛り上がっているこの「ラグビー」に情熱を注いでいる平岡北町内会の木全吉夫さんにその魅力と半生を語って頂きました。

質問：いつ頃ラグビーを始めたのですか、そのきっかけと持続する魅力は何ですか?

木全：当時、映画の主人公がやっていたラグビーが格好良く見えて、数少ない高校の部活で始めたのが最初。その後、一般建築士を取り、建築の世界で日本各地を転勤、ラグビー観戦等で情熱の灯を保ち続けて来た。50歳になった時、建築関係の先輩から誘いがあり、今の社会人クラブ「札幌有惑クラブ」に所属しました。以来25年程になります。練習に試合にと各地に転戦、海外試合も?(半分は観光^-^)けがをしないように着用パンツの色で年代別が判るようになっているので、高齢でも出来るのが嬉しい!ラグビーの魅力「一人はみんなの為に、皆は一人の為に」のスピリットで仲間の絆が強く、一人一人の個性や、身体能力に応じたポジション等、相手の役割分担を理解しながら行動するラグビーは「フェア(正々堂々)精神」がモットー。今注目されている事がとても嬉しいですね。

質問：仕事や町内会等忙しいと思いますが?

木全：クラブには様々な業態・職種の人があり、人との出会いや交流があり、楽しさに加え自身の生きる糧となります。スケジュール管理の為、自分の生活管理をするようになりますね。

質問：最近、ラグビーで良かった事ありましたか?

木全：初の日本開催。今回のワールドカップで、20日21日に行われた札幌ドームでの試合に、ボランティアですが大会のお手伝いが出来た事です。一生の思い出になりました。

質問：地域の皆さんへ何か伝えたいことは?

木全：サッカーや野球、他のスポーツと同じように、男女の別なく子どもから大人まで楽しめるスポーツなので、この機会にラグビーに慣れ親しんで楽しんでくださいね(^-^)。



所属のクラブ紹介 -札幌有惑クラブとは-
当時のラグビー好きな仲間たちが1963年3月18日に「有惑クラブ」として設立し、その後1979年9月29日に発展的に「札幌有惑クラブ」と改称され本年で56周年を迎えます。
その年度に40歳を迎える人が正会員として加入資格があり、年代ごとに【40代】は白色【50代】紺色、赤色【60代】、黄色は【70代】、紫色は【80代】、【90代】は金色のパンツを着用し、同色の市松模様のジャージーにヒグマの頭骨のエンブレムを配しています。背番号は永久欠番式で、最新番号は327番です。40歳に満たない方も準会員として、Over35大会、北海道選手権大会への出場を果たし、これからの有惑クラブを担うメンバーとして活躍しております。
現在は、7世代が融合し「One For All・All For One」の精神で毎週日曜日に汗を流しており、会員は100名を超えます。チームトレーナー・女子マネージャーも在籍しております。
(ホームページより抜粋、詳しくはHPを参照)

◎広報「ひらおか」に原稿応募・情報提供でクオカード又は図書券をゲットしよう!

広報「ひらおか」原稿募集しています!



- 一、応募期間～常時募集。発行は年2回を予定～次回は3月頃を予定。
- 一、応募締め切りは発行月の2カ月前まで(次回は1月末)
- 一、応募資格～「平岡地区町連」に居住する皆さま(特に主婦・中高の学生・大学生の方歓迎)。
- 一、応募内容～概ね600字以内程度(写真可) USB・SDカードでの応募歓迎。
 - ・町内会行事の楽しかった事や地域のボランティア活動等。
 - ・地域内の小・中・高の学校での地域活動や日常生活での活動報告。
 - ・各町内会の皆さんに知ってほしい事、役立ててほしい事柄等。
 - ・その他
- 一、連絡先～平岡地区町内会連合会(平岡まちづくりセンター内) TEL 883-7100

◎注意事項

※応募原稿の内容を審査し、採用の方に、クオカード又は図書券いずれかを進呈します。
※応募の原稿、写真は返却しません。
※紙面の都合上、掲載されない場合があります。
※掲載に当たっては原稿を添削することがあります。

編集後記

毎回、読者の方を思い描きながら、紙面づくりに励んでいます。満足のいく出来かどうか毎度自信が持てない。自身高齢の域に入ってきている由縁か、今回も地域の子供たちに关わる内容を多く取り上げました。

子どもたちの「未来」を「希望」と読めるよう、多くの方がSDGsを子供たちと一緒に学び取り組み、今を大事に、希望の未来を平岡から世界に発信していければと願っています。

広報部長 竹下 敏雄

